

氏名: ヒヨリ タウ **SAMPLE** 47 才 男 患者番号: 123456 採取日: 2016/10/28

依頼医療機関名: パソネット医院 依頼医: 検体: 胃



ID	123456	病院名	パソネット医院	様
(フリガナ)	ヒヨリ タウ	依頼科		科
患者氏名	病理 太郎	依頼医		
生年月日	1969 年 / 月 / 日 47 才	採取日	2016 年 10 月 28 日	
		臓器数	<input checked="" type="checkbox"/> 1臓器 <input type="checkbox"/> 2臓器 <input type="checkbox"/> 3臓器以上	

臨床診断  
体中部小弯に発赤隆起あり R10Ia

検査部位略図、材料、採取方法、病理医への依頼内容等 臨床経過、所見

【病理検査結果】

Adenocarcinoma, tub1-2, of the stomach, Group 5 (①~④)

【病理所見】

①②③④ Ca(+): Adenocarcinoma, tub1-2.

コメント: ①~④は Ca(+) ですが、2つの cell phenotype が混合しているように見えます。標本②が分かりやすいので、この標本でご説明いたしますが、②-1の下半分や②-2の大半に見られる、円柱状の dark cell からなる異型腺管 (Ca) は、intestinal type に見えます。一方、②-3や、②-2 (中心部) は、核が小型で丸いか多形性がめだち、細胞質が明るく弱好酸性の立方状細胞からなる異型腺管 (Ca) は gastric type に見えます。標本①にもこれら2つの要素がみられますが、③では gastric type のみです。④は、intestinal type がごく少量みられます。いずれにしても、同じ箇所からの標本であり、2つの phenotype には移行もあるようなので、origin は一つとみたいです。そして、細胞 (核) 異型は、gastric type の方が弱いので、gastric type → intestinal type への進行があったのかもしれない。

また、③の gastric type の像は、最近問題となっている、fundic gland carcinoma を思わせます。PPIの長期投与の履歴はないでしょうか。ご検討ください。

なお、上記で、gastric/intestinal とした腺管が、真にそうであるかについて (intestinal type とした腺管は mucous neck cell type の可能性もあり)、免疫染色で確かめたいところです。

報告日: 2016/10/31

(株)パソネット

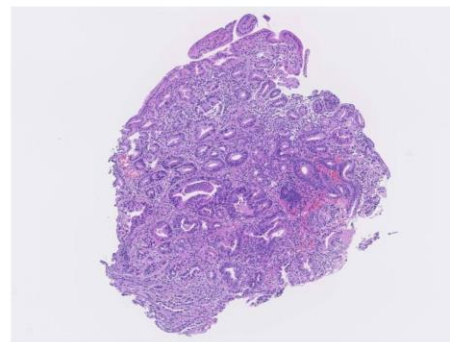
病理医 1: 組織 良子

病理医 2:

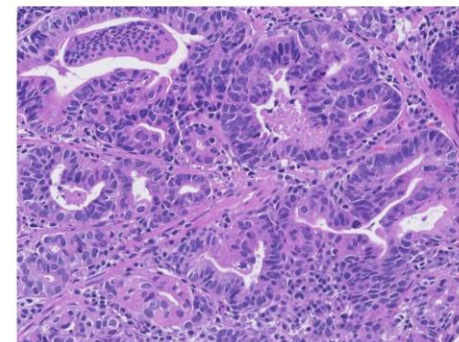
本報告記事を公表される際は予め弊社までご連絡ください。

氏名: ヒヨリ タウ **SAMPLE** 47 才 男 患者番号: 123456 採取日: 2016/10/28

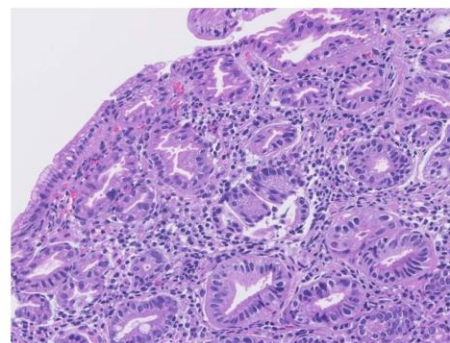
依頼医療機関名: パソネット医院 依頼医: 検体: 胃



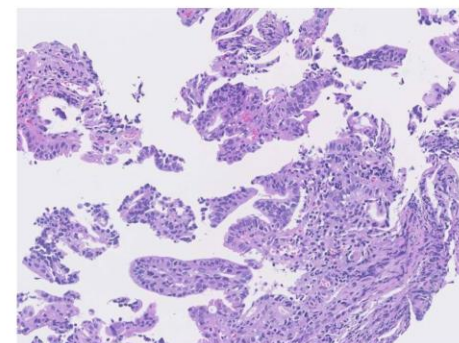
標本②-1



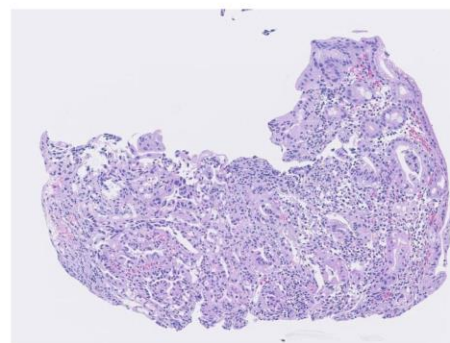
標本②-2



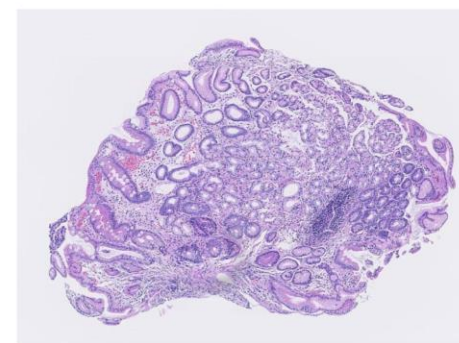
標本②-3



標本①



標本③



標本④

報告日: 2016/10/31

(株)パソネット

病理医 1: 組織 良子

病理医 2:

本報告記事を公表される際は予め弊社までご連絡ください。